| | |
|---|---|
| 事例No. | 2876 |
| 公表年度 | R5 |
| 団体の属性 | 特別区 |
| 団体名 | 東京都世田谷区 |

| | |
|---|---|
| 事例区分 | 地域活性化 |

| | |
|---|---|
| タグ | ・地域運営組織 |

| | |
|---|---|
| 事例種類 | 地域運営組織 |

事例内容・タイトル

事例４　東京都世田谷区―NPO法人neomura その１、その2

出典

地域づくり人材の養成に関する調査研究会（第3回）

# 事例４　東京都世田谷区ーNPO法人neomura　その１

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 団体名 | NPO法人neomura | | 運営形態 | 特定非営利活動法人 |
| 活動範囲 | 所在市区町村一部地域 | | | |
| 中核を担う職員等 | 任用形態 | 非常勤 | 出身地 | 地域外 |
| | 年齢 | 40代 | | |

【取組み概況】

○世田谷区用賀を中心に、清掃活動やイベント企画、地域における活動支援など、**地元住民が繋がり、より活気あふれる街**になることを目指し活動。令和3年度より、都市部農業の維持および地域の交流の場の創出として世田谷区との協働事業である「タマリバタケ」を世田谷区上野毛の地域で展開中。

○タマリバタケは、世田谷区の**提案型協働事業として実証実験中**であるが、農業体験スペース、農を基軸とした地域コミュニティの形成について、地域コミュニティマネージャーを設置し、マネージャーを中心に地域住民のコミュニティが広がりを見せる。（区内をはじめ区外、都外からの参画者も増加。）

○実証の成果を踏まえ、現在行ってる区有地だけでなく、**農地や空き地、空き家への利活用へと拡大**していき、農の理解と農に関わりたい人の仲間づくりにより、**農地や農業を守る応援団を増やしていく**。

○イベント企画として、**2万人規模の動員がある学生主体の夏祭り**「用賀サマーフェスティバル」の開催、**用賀で楽しくゴミ拾い**をコンセプトに掲げた「用賀BLUE HANDS」の取組みを実施。

○またコミュニティースペースの場として、**オンライン地域コミュニティ**「チーム用賀（Facebook：登録者２千人）」の主要な管理人を務める。あるいは**実際の対面の場**として「neobar（ネオバル）」を運営、交流の場を提供。

【設立の経緯】

○2006年よりNPO代表が、用賀駅前広場にて、年に一度の音楽フェスティバルを開始。音楽フェスティバルも規模が広がり、18回目となる今年は2日間で約2万人が集まるイベントとなった。この一連の活動から**2014年にNPO法人化**し、活動領域も清掃活動やコミュニティ活動、畑と公園づくりなどに広がる。

○役員は６名であるが、会社員であったり経営者であったりと**専属で行っている者はいない**。「チーム用賀」のコミュニティの中で、それぞれが**興味関心のある取組みを楽しみながら**進めている。

# 事例４　東京都世田谷区ーNPO法人neomura　その２

【行政との関わり】

○タマリバタケの取組みについては、世田谷区の**「提案型協働事業※」**として実施。
※NPO等の市民団体から、地域課題を解決する事業提案を募集し、選定された事業を区担当課と市民団体が協働して進めていく事業。

○世田谷区が抱える市街地の課題の一つに**都市農地の減少**がある。農地保全に向けた取り組みとして、予め区が設定した課題をどのように解決していくか**NPO法人に提案**してもらい、選定委員会の審査を経て選定し、実施に至る。

○最初は、neomuraから世田谷区に**「公園を耕させてください。」と直談判**したが、公園は管理の関係で難しいとのこと。

○農業振興や農地保全に繋がることとして、区民が何か取り組めることから始めようということで、区でも公共用地を有効活用していく観点からも区有地を使った農の利活用を地域で起こしていくに至っている。

○取組み開始以降、「区有地でこんな活用ができるのか。」と**様々な地域が興味関心**を持っている。

【中核を担う者の状況】

○用賀に住み始めた5、6年前は、友達が誰もいなかった。やはり何かアクションを起こすには、仲間が必要と考え、「せたコン」という**地域活動家を応援する任意団体**を複数人で立ち上げた。

○2015年に、現代表と「せたコン」で出会う。そこから意気投合し、neomuraへの経営参画、「チーム用賀」の立ち上げ、定期イベント、清掃活動、農活動などへと繋がった。**とにかく定期的に集まることを大切にしてきた**。

○「チーム用賀」は、 neomuraの所有物ではない。そこでどんな遣り取りがなされ、何が出てくるかは分からない。思いもよらない事が起きるかもしれない。そういった**偶発性に委ねることも大切**ではないか。

○先に役割や仕事を決めて、それをやってください。となると、**遊びではなく仕事**になってしまう。仕事になったら、**お金を貰わないとやらない**といった感情が湧いてくる。そうすると今度は義務になり、負担になる。目的と手段の順序がひっくり返らないように、やりたい人ができる範囲でやる。無理はしない。皆で分散をしながらできるのかといった仕組み、組織づくりを行っている。

○世田谷区の提案型協働事業に手上げた理由として、不動産業の観点から、都市部での農地の行末を考えると、明るい将来は見い出せない。一方、地域の大人達に**「仲良くしてください。」や「地域を良くしましょう。」といっても響かない**。やはり**共に活動できる場が必要**で農作業にその可能性を感じ、区にこの地で農業できないか相談を持ち掛けた。

○今後は、**リアル拠点（コワーキングスペース）等の設立運営**、その他地域に根付いた事業を、カテゴリ問わずコミュニティ型として運営していきたい。**賛同者を出資者、共同運営者として巻き込みながら、活動領域を広げていきたい**。